

東海支部より

Column
地域社会とIT

(財) ソフトピアジャパン 研究開発部

丹羽 義典

岐阜県の情報戦略 ーソフトピアジャパンー

岐阜県では全国に先駆けて地域戦略に「情報」を取り上げ、各種の情報関連プロジェクトを推進しています。ここではその代表的なプロジェクトであるソフトピアジャパンをご紹介します。

■ソフトピアジャパンプロジェクトとは

岐阜県では「交流・連帯・創造」をキーワードに、地域経営戦略の一環として県域全体を価値ある情報の「受信・生産・発信」の場とするための「スイートバレー構想」(図-1)を推進しており、「高度情報基地ぎふ(情場)」の実現を目指しています。

「情場」とは、産業の中心が農業の時代には「農場」が、また工業の時代には「工場」が重要な場であったように、情報産業にもそれに適した場＝「情場」が必要との理解から岐阜県が名付けたものです。

このプロジェクトは、岐阜県が第2次産業が主体の県であり、情報化の面で立ち遅れることで産業の空洞化が懸念されることから、21世紀の豊かな地域社会、ゆとりある生活を実現するため、行政主導の積極的な情報化施策を展開しているもので、ソフトピアジャパンはその最大の拠点(情報社会の産業団地)であり、岐阜県における戦後最大のプロジェクトです。

情場づくりは、計画策定当時にきわめて貧弱であった「情報」を一人前の産業に育成する「情報の産業化」と、既存産業を情報の力で活性化する「産業の情報化」の2つの施策で構成され、その有効な連携によって実現されると考えています。

■ソフトピアの歴史

21世紀を迎えた今年、ソフトピアジャパンは1996年のセンタービル開館から5年目を迎えました。これ

までのソフトピアの歴史について少し説明します。

1986年、岐阜県は梶原副知事(現知事)の指揮の下で、県民の夢を実現する「夢起こし県政」を提唱し、同時に「先取りの県政」で情報社会の到来を見据えたソフトピアジャパンプロジェクトを開始し、1987年には職員の手作りによる「ソフトピアジャパン基本構想」を策定しました。この構想には、

- 岐阜県の将来は情報化、特に、ソフトウェアづくりが鍵である
- この実現には研究開発、人材育成、情報交流の機能が必要である
- 産学官が三位一体となったプロジェクトでなければならない

という明確な指針が示され、後のプロジェクト推進の重要な基礎となりました。

プロジェクトの実現は容易ではありませんでした。用地買収や建築設計といった不慣れな仕事に加えて、バブル後の景気の悪化はプロジェクトの重要な課題である企業誘致、土地分譲に深刻な影響を与えました。これらの課題に職員自らが取り組み、問題を解決して土地造成、センタービル建設に着工したのは1993年、プロジェクトの開始からすでに6年を経過していました。

その後プロジェクトは順調に推移し、1996年にはセンタービルを開館して(財)ソフトピアジャパンが事業を開始して分譲地や研究開発室に多くの企業が進出するとともに、人材供給を目的とした国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)も開校しました。さらには、1997年には大垣市の情報工房が、2000年7月にはインキュベーション施設であるドリーム・コアがオープンしたことから、平成13年9月時点では企業数113社、従業員

1,700名がソフトピアの住人となっています。

現在、ソフトピアの総面積は12.9haですが、その内訳は、センタービル2.1ha、分譲地(48区画)6.9haが施設面積で、残る3.9haは公園や道路といった社会資本にあてられ、豊かな街づくりを目指しています。事実、多くの来訪者からは「まるで日本でない場所にきたような気がする」との感想が聞かれる「情場」にふさわしいデザインの街なのです(図-2)。

■ソフトピアの機能

ソフトピアは、研究開発、企業育成、人材養成、情報交流の4つの機能を持っています。

1. 研究開発

サイエンスパークに不可欠な独自技術の開発および新技術導入を目的とした研究開発事業と普及事業を行っています。

●地域結集型共同研究事業(委託研究)

研究課題：知的センシング技術に基づく実環境情報処理技術開発

東海支部より

Column 地域社会とIT

文部科学省の地域指定を受け、大学、公設研究機関、研究開発型企業の地域研究ポテンシャルを結集した共同研究を行い、新技術・新産業を模索しています。

このプロジェクトでは、大学教授3名を含む13名の研究者(内ドクター11名)が研究に従事し、顔認識や行動理解などの人間センシング、居住空間の理解や人との関係理解を行う環境センシングの大きく2つの研究を行っており、平成11年12月の研究室開所からこれまでの約2年間に6本の論文や6件の特許出願、ICPRなどの国際会議での採択・発表27件の成果を得ており、平成13年の画像センシングシンポジウム(SSII2001)では全方向ステレオシステム(図-3)の研究で論文賞をいただくこともできました。今後は人と環境との関係理解を中心に研究を深めると同時に、民間企業との応用共同研究をさらに活性化させて新技術・新産業の振興に寄与したいと考えています。

●共同研究事業

大学あるいは研究所とソフトピア進出企業およびソフトピアとの共同研究事業を実施して、新技術の開発

SWEET VALLEY

世界からスイートバレーへ、スイートバレーから世界へ

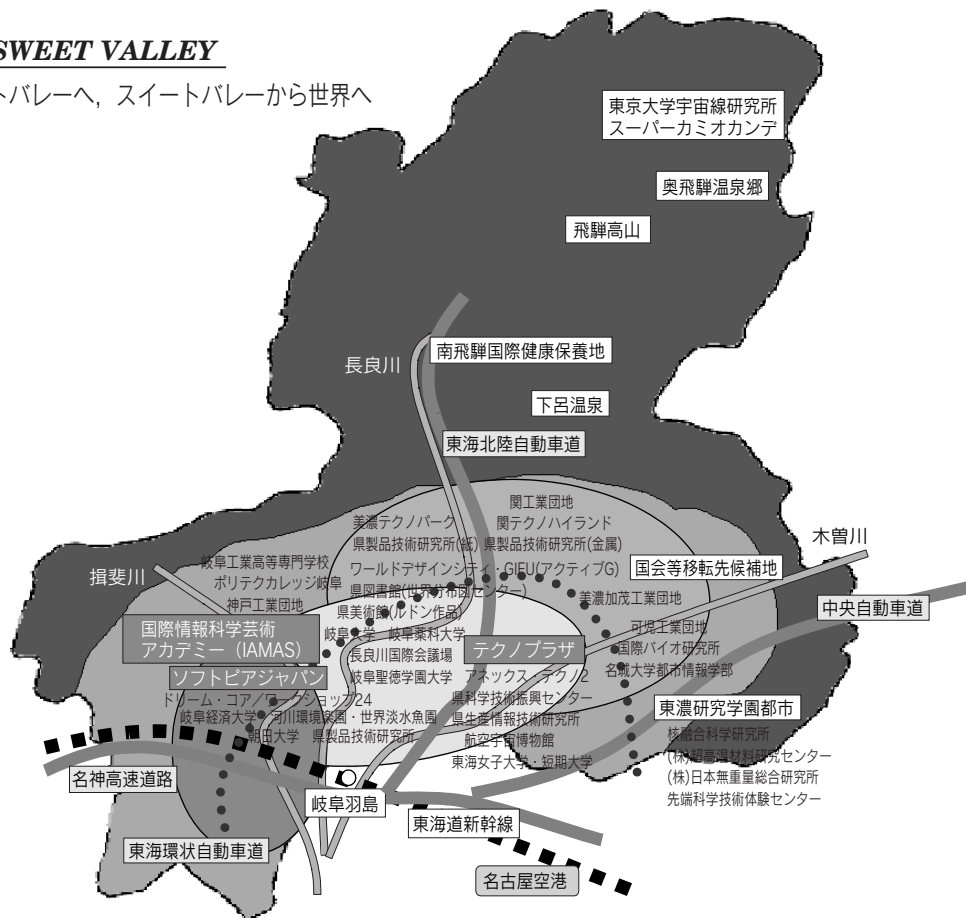


図-1 スイートバレー構想

Column 地域社会とIT

および技術移転を行っています。研究開発投資が困難な中小企業のため、研究費の2/3を上限とする研究支援を行うとともに、大学に対しても研究委託を行う仕組みで、毎年20件程度の共同研究を実施しています。

研究課題：（平成13年度実施課題：一部）

- 医療画像診断のための高度知能情報システムの開発（岐阜大学）
- 検診画像データのスクリーニング技術の開発（法政大学）
- Web画面効果に関する他覚的評価と効果的畫面構成（慶應義塾大学）
- 超高速ネットワークを用いたオープンラーニング（早稲田大学）

2. 企業育成

ソフトピアに進出している110余社および県内情報関連企業に対して、技術面および経営面から企業支援を行っています。特に、ベンチャー企業の育成には力点を置き、各種のインキュベート施策を実施しています。

1) 国際インキュベートセンター

2000年7月に新たにオープンした合築ビル「ドリーム・コア」の北半分を占めるこのセンターは、約22m²のインキュベートルーム100室と会議室等の関連施設

で構成され、情報関連のベンチャー企業に3年間を上限としてきわめて安価な料金で提供されます。各部屋には冷暖房施設、通信施設、ネットワーク施設が準備され、机とパソコンを持ち込めばただちに事業を開始することができます。

入居審査は適宜実施され、現在52社（61室）が将来有望なベンチャー企業として入居しています。中には現役の大学生も、某有名企業の社長OBもいるなど、独特な雰囲気の中で新たなビジネスを模索しています。

2) ビジネスサポートネットワーク

2001年9月には、ソフトピア分譲地の進出企業、センタービル内の研究開発室、ドリーム・コアの全室に8芯の光ファイバの敷設を完了し、第一種および第二種のインターネットプロバイダ10社による良質なネットワーク環境が提供されています。また、2003年には岐阜県全域に張り巡らされた情報スーパーハイウェイの民間開放が決定されていることから、岐阜県全域に対するネットワークビジネスが、無料で容易に実現できる環境となっています。

こうした一連の政策の結果、ソフトピア進出企業の業績は、他の製造業がマイナス成長を強いられているこの時期でも確実に成長を続けており、周辺企業からは、「ソフトピア効果」とであると評価されています。



図-2 ソフトピアジャパン

Column 地域社会とIT

3. 人材育成

「情場」の実現には、地域社会全般にわたる情報リテラシーの向上が必要です。ソフトピアはこのために、企業向け、県民向け、行政向けに、さまざまなニーズに対応した情報研修を実施するとともに、高度な情報人材を供給する大学院大学を設置しました。

1) 全国マルチメディア研修センター

前述の「ドリーム・コア」の南半分を占めるのがこの研修センターで、企業向け、県民向け、行政向けに研修を実施し、これからの情報社会をリードする人材の育成を目指しています(平成12年度の年間講座数80, 受講者1,327人)。また、1階の研修室は「プラチナモード実習室」と称して、パソコンの理解に多く時間を必要とする高齢者のために無料で開放され、専任のインストラクターが一人ひとりの進み方にあわせて指導しています。

2) 情報芸術科学大学院大学／国際芸術科学情報アカデミー

1996年、ソフトピアへの人材供給を目的として、マルチメディアをテーマとする県立専修学校「国際芸術科学情報アカデミー (IAMAS)」を開校し、毎年40名の卒業生の1/4程度が地元で就職し、活動しています。また、2000年には、当初からの目的であった大学院大学

の設置が認められ、2001年4月には「情報科学芸術大学院大学 (IAMAS)」が開校し、今後はより高度な人材がソフトピアで活動するものと期待されています。

4. 情報交流

ソフトピアジャパンは、企業間交流を積極的に図るため、マルチメディア & VRメッセ、各種セミナー、交流会を定期的に開催しています。また、県が推進するグローバル構想に連動して海外のサイエンスパークや企業・団体と交流を深めており、これらの成果は、入居企業間での開発協力や、ベンチャー間での技術交換、あるいは海外企業との提携などのビジネスに繋がっています。

1) マルチメディア & VRメッセ

国内外の情報通信関連企業・団体を一堂に集めて、新製品の紹介、研究開発技術のデモ等を行うメッセを毎年開催しています。メッセと共催のビジネスセミナーやソフトピアジャパンに立地する企業のオープンハウスなどと合わせて、期間中に20,500名がソフトピアを訪れ、最新情報の収集と、企業間交流を行っています。

2) 世界ソフトウェア & テクノロジー会議

情報技術分野において、国や地域、専門領域や企業系列等にとらわれない産学官関係者の情報交換のための会議を隔年で開催しています。岐阜県と提携関係にある海外機関や企業を中心に200名程が参加して、情報分野における商品、技術、人材、施策等について議論を続けています。次回は、2002年に岐阜県で開催予定です。

こうした一連の活動は、ソフトピア進出企業のみならず多くの県内産業からも支持を受けており、最近では県外企業からも「参加させてもらえないか」との要望が寄せられるまでになっています。

■ソフトピアの今後

業務開始から5年を経過したソフトピアジャパンは、2002年5月には職住一体型施設「ワークショップ24」がオープンするなどさらに成長を続け、2005年には5,000人規模の情報産業エリアを集積して、「情場」の形成を目指します。しかし、ITまでもが不況といわれる昨今のことから、この道は決して平坦なものではありません。このため、ソフトピアはその活動方向を、ネットワークとヒューマンインターフェース技術をベースとした「福祉・公共システム」に集中し、福祉社会実現にかかわるビジネスをターゲットとして取り組んで参ります。情報に深くかかわられる皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。

(平成13年9月3日受付)



図-3 全方向ステレオシステム (SOS)

東海支部より

Column
地域社会とIT